

泌尿紀要
Acta Urol. Jap.



Vol. 27, No. 7

ACTA UROLOGICA JAPONICA

July 1981

泌尿器科紀要

第27巻 第7号 1981年7月

ヒト腎細胞癌の基礎的研究

- 第6報：培養系での腎癌細胞と正常腎細胞の
各種抗癌剤に対する感受性の相異について……………松田 稔・ほか… 759
- VP-16 のヒト膀胱癌由来培養細胞 KK-47,
KW-103, RT4, およびヒト腎癌由来培養細胞
KN-41 に対する *in vitro* の殺細胞効果……………久住 治男・ほか… 771
- 尿管結石症患者における SCE-1365 の分腎の尿中濃度……………桐山 幸夫・ほか… 775
- 移植腎CTにおける contrast enhancement
の定量的分析の試み……………藤田 民夫・ほか… 781
- 尿管口部腫瘍のコンピューター断層撮影……………竹内 秀雄・ほか… 787
- Hernia uteri inguinalis を合併し興味ある
経過を示した睾丸腫瘍の1例……………柳沢 宗利・ほか… 793
- ツムラ猪苓湯の尿管結石排出に及ぼす効果の検討……………栗田 孝・ほか… 801
- 経直腸の超音波断層法による Estramustine
phosphate (Estracyt®) の治療効果判定……………大江 宏…………… 815
- 単純性急性膀胱炎に対する Cefoperazone の使用経験……………京都大学…………… 823

第30回泌尿器科中部連合地方会

[特別講演]

- 泌尿器科領域の組織培養, 特に癌をめぐる線溶系と
その臨床的応用……………久住 治男…………… 829

[シンポジウム]

- 泌尿器科領域におけるCTスキヤンの応用
- 泌尿器科医としての現状認識……………津川 龍三… 843
- 画像診断学からみた泌尿器科領域のCTの意義……………鈴木 正行・高島 力… 845
- CTの診断的有用性……………鈴木 孝治・ほか… 853
- 従来の検査法とCTの比較……………秋山 隆弘… 859
- CTの限界……………小野 秀太… 869
- CTを利用しての診断法の試み……………藤田 民夫… 875
- 泌尿器科からみたCTの評価と展望……………西尾 正一・ほか… 881
- 泌尿器科からみたCTの意義……………原田 卓… 889



Editor: Prof. Osamu YOSHIDA, M.D.

Department of Urology, Faculty of Medicine,
Kyoto University, Kyoto Japan 606
京都大学医学部泌尿器科学教室

禁帯出

到着後 1ヶ月間

編集後記

何年か前のある雑誌にジュバイツァー博士の写真が載っていた。哲学的な風貌、美しい白髪、深く刻まれた皺など実によく撮っていたが私は口元にあてた博士の手にもっとも感動した。驚くほど頑丈で筋張っており、しかもオルガン演奏者としてまた医師としての繊細にして堅固なものが秘められている。この写真は今も大切に保存している。

「40才をすぎてからの顔は自分の責任である。」「男の顔は履歴書である。」などという。私はヒトの手も同じことがいえるのではないかとおもう。充実した素晴らしい人生を生き抜いた人の手は美しい。

人生の最後の一頁を書き終えたときの自分の手に満足し、長い間ごくろうさま、といえるようになりたいものと念じているが、それには自分の天職に全精力を傾注することが何よりも肝腎とおもうきょうこのごろである。
(O. Y.)

購読要項 (1981年1月改定)

1. 発行は毎月、年12回とし、年間購読者を会員とする。
2. 会員は年間予約購読料5,000円(送料とも)を前納する。払込みは振替に限る。口座番号 京都4772番 泌尿器科紀要編集部宛。
3. 入会は氏名(フリガナ)、住所(雑誌郵送先)、勤務先を記入のうえ編集部あて、はがきにて申し込む。

投稿規定 (1981年1月改定)

1. 投稿：連名者を含めて会員に限る。
2. 原稿：泌尿器科学領域の全般にわたり総説、原著、症例報告、その他で和文または英文とする。
 - (1) 長さは制限しないが簡潔にする。
 - (2) 和文原稿はB5版400字詰原稿用紙横書き、楷書、当用漢字、現代かなづかい、平がなとし、清書する。文中欧語の固有名詞は大文字で、普通名詞は小文字で始め、タイプし、年号は西暦とする。
 - (i) 原稿の表紙に標題、著者名、所属機関名の順に和文、英文で併記する。下段に筆頭著者名(山田：または山田・ほか：)と、2語(例：前立腺がん・PSAP)からなる running title および5語(英文)以内の key words を付す。
 - (ii) 英文抄録；ダブルスペースでタイプし、その和訳をつける。
 - (3) 英文原稿はダブルスペースでタイプし、原稿の表紙に標題、著者名、所属機関名、key words (和文に準ず)、running title (和文に準ず)の順にタイプし、別に標題、著者名、所属機関名、抄録の順に記した和文抄録を付す。
 - (4) 数字はすべて算用数字を使用し、単位は m, cm, mm, l, ml, kg, g, mg, μ g, %, $^{\circ}$ C, pH などとする。

- (5) 図、表、写真などはすべて別紙とし、写真はトリミングする。説明は和文、英文を問わず Table 1, Fig. 2. などとし、なるべく英文とする。原稿右欄外に挿入さるべき位置を明示する。とくに図・表は必ずタイプまたは楷書で清書し、誤りのないことを確認する。様式については本誌の図・表を参照する。

- (6) 引用文献は必要最小限にとどめ、引用個所を本文中に入れる。和文は楷書で、欧文はタイプする(例：山田^{1,3,7)}、田中^{1,3-10)}によると)。

雑誌の場合—著者名(全員)：題名、雑誌名、巻：最初頁～最終頁、発行年。

単行本の場合—著者名(全員)：題名、書名、編集者名、版数、巻数、引用頁、発行所、出版地、発行年。

- (7) 原稿は書留で〒606 京都市左京区聖護院川原町54 京大病院泌尿器科紀要編集部宛送付する。

- (8) 校正は初校を著者による責任校正とし、再校以降は編集部が行なう。著者複数の場合校正責任者を投稿時指定する。

- (9) 編集部は原稿の訂正、書き直しまたは返却を指定する権限を保持する。

3. 掲載

- (1) 論文の掲載は採用順とする。迅速掲載には迅速掲載料を要する。

- (2) 紙代、印刷費および最初1頁の組版費は編集部で負担する。残額を実費負担とし、請求は論文掲載誌発行後に行なう。

- (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療器具の使用などにかんする研究論文については、掲載料を別途に申し受ける。

4. 別刷

実費負担とし、著者校正時に部数を指定する。

編集委員：石神 襄次 前川 正信
園田 孝夫 友吉 唯夫

宮崎 重 新谷 浩
桐山 畜夫(副主幹) 吉田 修(主 幹)

泌尿器科紀要 第27巻 第7号 1981年7月25日 印刷 1981年7月31日 発行
創刊 稲田 務 顧問 加藤 篤二

発行 吉田 修 発行所 泌尿器科紀要編集部

〒606 京都市左京区聖護院川原町54 京都大学医学部泌尿器科学教室内 電話(075)751-3327(直通)
印刷所 山代印刷株式会社 京都市上京区寺之内通小川西入